

PTA

やまがた

第43号

平成31年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 佐藤 博之

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『子どもを愛し、地域を愛し、
互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

子どもを愛し、地域を愛し、 互いを信頼し合うPTA

「織り成す縁に感謝」

子どもたちと一緒に今を生きる」

山形県PTA連合会会長 佐藤 博之



本会の運営・活動に対し、常日頃から温かいご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校、地域社会において子どもたちの健全育成のためにご尽力をいただき重ねて御礼申し上げますとともに敬意を表します。

年度末を迎え、今年度も残すところあとわずかとなり、月日の流れの

速さを改めて感じております。今年

度は標記のスローガンのもと様々な活動を展開して参りました。特に私たちが最も大切に行っている研修活動の集大成として開催した研修大会上山大会や、山形県教育委員会、山形県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会など、会員の皆様のご協力に支えられ充実した学びの場となりました。昨今の子どもたちを取り巻く環境の変化は、私たち保護者が思っている以上に大きく、さらに加速しています。私たちはPTA組織を活用し、そして、その活動をますます活性化させ、「教育の基盤は家庭にある」ことを、また、家庭・学校・地域を結ぶ架け橋としての役割

と責務の重要性を自覚し、子どもたちの健全育成のための活動を継続していくことが重要であると思っております。

さて、平成二十九年六月に国の教育再生実行会議が「教師の負担軽減に向けた教師の働き方改革を実質的にかつ着実に実行すること」を求め、中央教育審議会の特別部会では、学校における働き方改革に係る緊急提言及び中間報告を行っています。文科省では働き方改革の関連事業を予算化し、スポーツ庁では「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を示しております。

これらを受けて県も市町村も「教員の働き方改革プロジェクトチーム」を中心に教員の業務削減・見直しに向けた課題の検討を行っております。学校における働き方改革の実現により、教員の業務負担が軽減され、児童生徒と向き合う時間が十分に確保され、児童生徒に真に必要な総合的な指導が持続的に行われるよう私たちも地域と一緒に考えて、実現に向けた理解と協力を進めてい

く必要があると考えます。そして子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力が育成されることを期待したいと思います。

このように子どもたちを取り巻く社会情勢や教育環境が大きく変化しつつありますが、PTAとして必要なことは、親として目標を持ちいきいきと生活し、研修・学習を深める活動を活発にしていくことだと考えます。そうすることが必ずや子どもたちの健全育成に繋がるものと思います。

平成三十一年度には日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会が開催され、二〇二二年度には日本PTA全国研究大会山形大会の開催が決定しています。これらを機に、山形県PTAとしての活動をますます活性化させ、「人間力に満ちあふれ 山形の未来をひらく人づくり」につなげていきたいと思っています。最後に、山形県教育委員会をはじめ関係各位の皆様からの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますと致します。

学校・家庭・地域をつなぐPTA

「子どもを愛し、地域を愛し、互いを信頼し合うPTA」をスローガンに掲げ、今年度も明確なねらいのもとに様々な活動が実践されました。子どもたちの健全育成をねらいとした活動には、「山形方式ネットモラル講習会」の実施、新小学一年生への「守ってけるシール」の配布、人権教育「ありがとうボックス事業」の実施などがありました。また、子どもたちの健康で安心・安全な生活を守ることをねらいとした活動には「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進、地域の実態に即した安全確保活動などがありました。どの活動も本県教育の根幹である「いのちの教育」に関わる重要な活動です。



上市市立上山小学校
校長

丹野芳弘

実践しています。例えば、子どもたちの情報端末機所有率の増加に伴い、ネットトラブルのリスクが年々高まっている現状を受け、学年ごとのネットモラル学習だけでなく、PTA主催の保護者研修会や中学校区の三校PTA合同のアウトメディアの取り組みを実施しました。また、道幅が狭く、坂道が多いという学区内の道路状況を受け「自転車乗車時のヘルメット着用義務化」にPTAが主体となって取り組み、百パーセントの着用率となりました。さらに、子どもたちにとって安全な環境づくりのために、PTA会員が率先して「横断歩道を安全に渡らせましょう運動」にも取り組んでいます。

子どもたちの健全育成も、安心・安全な環境づくりも、学校・家庭・地域の連携なしには成し得ないものです。三者をつなぐ太いパイプ役としての働きを担うPTAの日常的で継続的な活動をこれからもお願いしたいと思います。

山形県PTA研修大会上山大会を終えて



実行委員長

高橋秀司

平成三十年度、上市市P連が主管となり七十周年記念となる第七十回山形県PTA研修大会上山大会が十月二十一日、三友エンジニア体育文化センターを主会場に盛大に開催されました。当日は、多くのご来賓と県内各地より千三十名ものPTA会員の皆様にご参加をいただきました。実行委員会を代表し、改めて御礼申し上げます。

本大会では「はぐくもう人間のち」つなごう『いのち』と『いのち』きずこう子どもが輝く郷土（結集しよう 家庭・学校・地域の力）の大会主題のもと、五つの分科会と式典・記念講演が開催されました。

それぞれの分科会では県内各地の代表三名ずつがパネリストとして自校の取り組みを紹介し、意見交換がなされました。「自校の取り組みに生かしていきたい」「意識を高めるために、積極的に発信していきたい」と、PTA活動に前向きな気持ちにさせてくれる分科会となりました。

午後、全体行事の後は初代ス

ポーツ庁長官鈴木大地氏をお招きし、『スポーツが変える。未来を創る。』と題して記念講演を行いました。国のスポーツへの考え方と施策、体育の授業が変わることや運動部活動の未来の姿等々、生涯スポーツの礎を築く取り組みの数々を聞くことができました。

今大会を開催するにあたり、実行委員会を組織し二年以上をかけて取り組んでまいりました。県内で最も少数の会員数ですが、様々な仕事を分担して、何度までも意見交換し、準備を進めてまいりました。前日準備、当日の運営、後片付け、記録編集作業など、お互い励まし合いながら大会をつくりました。ご参加の皆様からお寄せいただいたアンケートを集計したところ、多くの皆様から高い評価をいただきました。大変喜ばしく、これからの市P連活動の励みにしたいと思います。

このような大きな大会を開催させていただく機会を得て、各校PTA会員が連携し同じ目標を目指したことは、今後の活動にも大きな力になり、PTAの団結をより一層深めることが出来たのではないかと実感しております。

PTA連合会役員、事務局の皆様からも多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

ごあいさつ



山形県PT A母親委員会
高見佳澄

山形県PT A母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。また、各郡・市PT Aの母親委員会におかれましては、活発に活動していただきありがとうございます。今年度は「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、各郡・市の母親委員会の活動について情報交換を行ってまいりました。

平成十六年度に日本PT Aの母親委員会の活動休止に続き、東北PT Aの母親委員会もなくなった今、山形県PT Aの母親委員会の存在意義が問われています。そこで、今年度は趣旨・会則を整える

ために、まずは母親委員会の存在意義についてとん話し合うべきだと、情報交換の時間を使い意見を出し合っているところです。母親同士のネットワーク



の素晴らしさ、母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、母親委員として子どもに何ができるのかを、皆さんと共に考えていきたいと思っています。どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、親である私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思います。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士のつながりが重要ではないかと思っています。子どもとのかかわりと親同士のつながりを大切にしながら、母親委員会は活動してまいりたいと思います。

各地区の活動報告

《山形市》

・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
「かわかる喜びつながる心」に沿った内容で活動

・定例母親委員会 三回

・（活動方針・情報交換）

・「親学」家庭教育視察研修
（まなびあテラス視察）

・拡大母親委員会 一回

・講演…「いのちの大切さ学習会」
「性教育と子どもの恋愛」

・講師…渡曾睦子氏（東京医療保健大学教授）

・「マザーズねっとわーく」No.23 発行

・《上山市》

・母親委員会 一回

・保護者研修会 一回

・講演…「いのちの大切さに関する学習会」
「かけがえのないいのちのために」

今、親としてできること

・講師…後藤敬子氏（酒田市健康課助産師）

・《天童・東村山地区》

・母親委員会総会

・母の集い（意見交換会）

・講演…「共育応援団」
「共に遊び共に笑い共に育ち合う」

・講師…土屋常義氏（東根市立大森小学校長）

・「母親委員会だより」発行

・《西村山》

・定例母親委員会 二回（協議・研修）

・研修…各学校母親委員活動の現状と情報交換

・代表委員会 二回（企画運営）

・「母親委員会だより」発行

・《北村山地区》

・四月顔合わせ会（村山市）

・三月報告会（村山市）

※村山市P・大石田町P・尾花沢市Pにおいては母親委員会活動あり。

《最上地区》

・家庭教育支援フォーラム（兼）PT A協議会
母親委員全員研修会
研修…「共に育つ」～思春期を乗り切るための親の役割～

・講師…金澤和子氏

（山形県家庭教育アドバイザー）

・代表母親委員会研修及び情報交換会 二回

・母親委員会だより「かあちゃんほつとらいん」二月発行

・《米沢市》

・定例母親委員会 年三回

・情報交換…二回

・講演会…一回

・《東置賜地区》

・地区P代表母親委員一名が県PT A母親委員会に出席しています。

・《西置賜地区》

・定例母親委員会 一回

・「母親委員会だより」発行

・地区P交流会参加協力

・《鶴岡市》

・母親委員会 二回

①活動方針情報交換 高校再編計画について

②講演…「健康を足元から考えよう」

・講師…三浦 亨氏（靴工房エーリズ）

・グループ会議 三回（活動・運営方針、研修会企画、情報交換）

・「母親委員会だより」発行

・《東田川郡》

・定例母親委員会 二回

・活動報告

・情報交換等

・《酒田飽海》

・母親委員長等会議 二回（活動方針・情報交換・講演会）

・講演…「親業」コミュニケーションの取り方

・講師…志田伊津子氏

（親業訓練インストラクター）

・酒田飽海PT A研修大会への協力

「学校における働き方改革に向けたPTAの取り組み」

～子どもと向き合う教育活動充実のための環境整備～

社会の急激な変化が進む中、未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を育成するため、学校教育の改善・充実が求められています。そのため、子どもの指導を直接担う教員に対する多様な期待で、長時間勤務という看過できない勤務実態が明らかとなりました。

教員が心身の健康を損なうことのないよう、業務の質的転換を図り、児童生徒に接する時間を十分に確保できる状況を作り出すことが必要です。

常に児童生徒のためにより良い教育環境を実現するために、学校がどのような支援を必要としているのかを十分に把握した上で「児童生徒にとってより良いことは何か」、「学校を支援するために何が必要か」という視点に立って、環境整備に努めていく必要があります。

そのため、教員の勤務の現状を理解し、学校における働き方改革を進めるために、PTAとしてどのような取り組みができるのかを考えます。

〈話題提供〉山形県教育庁教職員課 課長補佐 濱田芳郎 氏

教員の勤務実態について 教員の勤務実態調査（平成28年度）の集計から

1. なぜ「働き方改革」か？

- ・ 1週間の総勤務時間が小学校で平均50時間～60時間、中学校では55時間～65時間と月80時間を超える時間外勤務が小学校で33.4%、中学校で57.7%と10年前と比較しても増えている。
- ・ 定められている勤務時間を3時間30分以上も超える時間外勤務で過労死ライン超。
- ・ 限られた時間の中で、児童生徒に接する時間を十分に確保する。
- ・ 教員の日々の生活の質や、教職人生を豊かにすることで、教員の人間性を高める。

2. 時間外勤務の背景

- ・ 学校が抱える課題の複雑化・多様化で不登校、いじめ、暴力行為、特別な支援を要する児童生徒、多様な家庭環境への対応。

3. 学校の業務の状況

- ・ 小学校では休み時間中の指導や給食指導による連続指導のため児童在校中の校務や授業準備等の時間確保が困難。
- ・ 中学、高校では生徒指導や補修指導、部活動に関わる時間が長いため授業準備等の時間確保が困難。

《改善が期待される事業》

- ➔平成30年度に小学校に24名、中学校に6名のスクール・サポートスタッフが配置され、教職員の事務的業務が軽減されます。今後の配置計画は4年で12学級以上に1名の配置を予定している。
- ➔平成30年度に中学校98校中の49校に部活動指導員が配置された。外部指導者とは違い、大会の引率もでき、部活動の管理・運営に対応することで顧問の負担軽減が図られる。平成30、31年度の2カ年で、すべての中学校に1人ずつ配置するとともに、平成32年度以降には複数配置が可能となるよう、努力していく必要がある。

〈PTAとしてどのような取り組みができるか？〉

- ➔役員会等を学校で行わずに、コミュニティセンターなどを利用する。
- ➔保護者も積極的に業務を行うPTA活動となるような組織改革。
- ➔地域行事へ児童生徒の参加は、地域の理解を得ながら保護者や地域の方が主体となる。
- ➔学校行事として実施している地域奉仕活動は、夏休み中の地区奉仕活動としての実施に切り替える。
- ➔通学路における登下校指導、交差点等での立哨指導、校門周辺でのあいさつ運動指導。
- ➔PTA役員会を精選し、会議の回数を減らす。

《まとめ》

子どもたちの教育は学校だけで完結するものではなく、教育に対する家庭や地域社会の深い理解を基盤とした連携・協力があってはじめて、充実した教育活動を実現することができます。

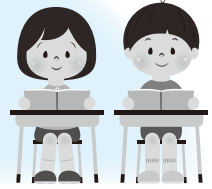
より多くの保護者や地域住民に学校への関心を持ってもらい、地域の教育力を積極的に活用していくことも大切なこととです。

文責 山形県PTA連合会理事 佐藤裕子

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。



親子読書・地域の活動

心育む親子読書活動

寒河江市立西根小学校

PTA会長 古沢 正明

本年度は、PTA活動のテーマに、「共感・共同・共有」を掲げ、「大人も子どもといっしょに感じ、成長できること」を目指しております。

私たち大人は、普段、読書をするための時間を確保することが難しくなっているのではないのでしょうか。

「親子読書」の取り組みを通して、本を読む良いきっかけになっていると感じております。さらに、同じ本を読むことを通して、子どもの顔を見て、それぞれ意見を交換し、いっしょの時間を過ごす貴重な体験になっていると思います。同じ本を読むことで、子どもが何を考え、どんな意見をもっているのかを知る良い機会になっております。

親子いっしょに、読書で心を育てる体験を大切にしていきたいです。

西根小学校の取り組みの概要

寒河江市では、「みんななかかわるみんなで育む『さがえっく』」のプランとして、「絵本や本を読んで広がる心と世界」を掲げ、読書推進に努めています。

それを受け、本校でも、四年前から「親子読書」に取り組んでいます。低学年は、読んでもらいたい本を選んだり、おうちの人に読み聞かせをしたりしています。高学年は、お互いの読んだ感想を、一枚の紙に書いて交換し合います。親子の貴重な時間になっています。

読書で親子のコミュニケーションを

米沢市立広幡小学校PTA

☆読書に関する教育講演会

家庭の中で、読書を通して子どもの心を豊かに育てたいと考え、「読み聞かせで育つ子どものころ」というテーマでPTA主催の子育て講演会を行いました。読み聞かせは、親子で一緒に楽しむことができ、親子のよいコミュニケーションの場となり、豊かな感性を育むことができますという話を聞きました。その後、『おつきちゃんとかっぱ』という絵本の読み聞かせをみんなで聞いて、読み聞かせの楽しさを保護者自身が体験しました。



☆読書月間で親子読書
学校の読書月間に合わせて、親子で同じ本を読んで感想を話し合った

り、読み聞かせをしたり親子読書に取り組みました。「親子読書を通して、親子の時間が取れてよかった」「読んであげるよ。」と言った時にうれしそうな顔をしたので、私もうれしくなりました」というような感想がありました。今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。

読書支援サークル「たからばこ」

鶴岡市立朝陽第一小学校

朝陽第一小学校には、保護者と地域の有志による子ども読書支援サークル「本のたからばこ」があります。主な活動内容は、朝や昼休みの読み聞かせ、学級や学年ごとのお話会、「たからばこ通信」による広報活動などです。読み聞かせやお話は毎週定期的に行われており、日常的な活動のほかにも、入学式での新入生への読み聞かせや市立図書館と連携した活動も行われています。読書を通して子どもたちの豊かな心の育成を目指しています。



読み聞かせと「母の会文庫」の整備

鶴岡市立朝陽第五小学校

朝陽第五小学校では、PTA母の

会の様々な活動のひとつとして読み聞かせを行っています。

活動の重点は、「子どもたちが笑顔いっぱいになるように、よい本を選び、楽しい読み聞かせをする」ことです。毎年、計画的に読み聞かせの本を整備しています。読み聞かせに参加した保護者の声を紹介します。「音楽室にたくさんの子どもたちが集まり、集中して聞いてくれてとてもよかったです。多くの子どもたちが前にして緊張しましたが、私も楽しく読み聞かせができました。子どもたちの笑い声があり、こちらも楽しい時間でした。次も楽しみです。」



親子で楽しむ「よみかきせ」で心のふれあいを

山形市立第一小学校

母親委員会 原田 裕子



本校では、毎年七回の保護者による読み聞かせを行っています。本は読み聞かせボランティアの保護者さんの自由なチョイスで、月に一度、朝の十〜十五分間に一〜二冊の読

み聞かせを行います。子どもたちからも、ボランティアさんからも、読み聞かせ後に感想をいただきます。過去の感想から、いくつかご紹介いたします。

お母さんの感想から

＊絵本を通して、子どもたちと共有できる何かを感じることができてうれしく思います。子どもたちのキラキラとしたまなざしが印象に残りました。

＊とても真剣に聞いてくれ、新鮮な気持ちになりました。授業参観の時とはまた違った子どもたちの一面を見ることができたように思います。絵本の読み聞かせを通して、子どもたちの心に何か響くものがあればうれしく思います。

子どもたちの感想から

＊「おもちゃのかたづけできるかな」かたづけしてもらって、おもちゃはうれしいとおもう。

＊「にじいろのさかな」にじうおは、うろこをはがす時、ものすごくいたかったと思います。けれども、にじうおは、うろこをはがしてあげていたので、どれくらい



にじうおが友だちがほしかったのか分かりました。だから、これからも友だちを大事にしていきたいと思いました。
(四年生 女の子)

浸透していく親子読書

新庄市立新庄小学校PTA

本校PTAは、毎月第三日曜日を親子読書の日とし、学校と連携しながら取り組んでいます。



★「親子読書カード」の活用

おすすめ方・ルール

①日にちを決める ②方法を決める ③本を選ぶ ④テレビなどを消し、できるだけ静かな環境をつくる

月日	読み手	読み手
5月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
6月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
7月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
8月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
9月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
10月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
11月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
12月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)
1月	あまのじゃく(新)	あまのじゃく(新)

今年度の 新庄 家のベスト本
あまのじゃく(新)

読書感想文の書き方
① 読書感想文の書き方
② 読書感想文の書き方
③ 読書感想文の書き方
④ 読書感想文の書き方

方法(四種類の中から決める)

①おうちの人から読み聞かせをしてもらう ②おうちの人へ読み聞かせをする ③同じ時間に親子で読書をする ④その他

★児童会活動の利用

図書・報道委員会の児童が、親子読書のある週に、放送で自分の読む予定の本のタイトルや読書方法について話をしたり、図書室の親子読書コーナーを勧めたりします。

★親子読書おすすめの本の紹介コーナー設置

各家庭から選ばれた「ベスト本」や新刊図書を紹介しています。また、学校から紹介された「ライブラリサーチURL」で図書室にある本をリサーチして、児童と一緒に本を選ぶこともできます。

全九回の親子読書の中から親子で相談し、一番の本「〇〇家のベスト本」を一冊選びます。

★親子読書の感想紹介

「自分で読むのははずかしかったけど、ママが読んでいるのを聞くのは楽しかった。」 (一年女)

「ばあちゃんや二人で楽しく読んでいました。」 (二年保護者)

「(方法④)違う時間に同じ本を読む」二人でおもしろかったところを話しました。」 (六年保護者)

優良PTA文部科学大臣表彰

夢をかなえる力を育むPTA活動

(学校と協働して取り組む生活習慣改善)

楯中パワーアッププロジェクト

村山市立楯岡中学校PTA会長 金子一志

一、はじめに

本校は平成十七年に楯岡中・西郷中・袖崎中の三校が統合して「新楯岡中学校」としてスタートし、今年で十四年目を迎える。学級数十七、生徒数は四〇八名の規模校である。PTA加入率は、一〇〇%で、会長・副会長は統合した四つの地域全てを網羅するように選出し、地域の特徴を活かした運営が実現されるよう工夫している。

校訓「学ぶ・響く・琢く」を軸として、教師と生徒・保護者が思いを共有しながら同じ方向に向かって全力で進む、活力あふれる学校生活を展開している。

二、特徴的な活動

生活調査や地域の実態から、子ども、生活時間が夜型化していることや、メディアの普及による課題の解決を目指した対策が必要であることが分かった。本校では平成二十八年から二年間、文部科学省「中高生を中心とした生活習慣マネジメント・サポート事業」の委託を受けた。この取り組みを継続するために、市

教委の協力を得て、今年度も学習意欲・気力・体力の向上を目指し「楯中パワーアッププロジェクト」を学校と家庭が協働して展開している。

(一) 親子学習会・ファミリミーティング(生徒・保護者・学校合同企画)

一学期末授業参観日、親子で同じ講演を聞く親子学習会を企画している。当日は全体の七〇%を超える保護者が参加して同じ講演を聞いている。講演後は生徒と保護者代表が講師とパネルディスカッションで意見を交流し合い学びを深めた。

講演内容を家庭でも話題にし、家庭生活に活かすことを目標にPTA母親委員会が分かりやすいモデルVTRを制作して「ファミリミーティング」を提案した。

その結果、八〇%を超える家庭からミーティング結果の記録が提出され、家庭でのあたたかな交流や生活リズム改善に対する意識の高まりを感じた。

(二) パワーアップウィーク

本校の期末テスト前一週間を期間とし、学区内三つの小学校と同時期

に年三回、生活習慣改善強化週間として実施している。

本校ではオリジナル生活記録ノート「楯中Life」を活用し、日々の生活の計画を立てて実施し、ふりかえりを行っており、保護者は一言記入欄に応援メッセージを記入している。この取組は小中連携して実施することで、小学生と中学生がいる家庭でも同じ方向を向いて活動できたことで成果を上げている。

(三) 子育てミニ講演会の開催

子育て環境のレベルアップを目指した保護者向け子育てミニ研修会を、母親委員会が主催して実施している。平成二十八年度はアンガーマネジメント、平成二十九年年度と三十年年度は思春期の子どもの接し方と勇気づけをテーマに和やかな研修会を開催し、大変好評だった。

(四) PTA新聞「ぎざはし」の発行

PTA広報部により、年間三号のPTA新聞が発行されている。広い視野で学校や地域での生活を見つめた豊富な記事や感想などにより、学校やPTA活動に対する理解が深まっている。地域にも回覧し、PTAの視点で編集された学校の様子を地域にお知らせしている。

(五) 学校保健委員会

学校保健委員会にはPTA役員会も委員として参加し、校医も含めたグループでパワーアップ期間中の家庭での様子を交流し、今後の展開を協議した。

(六) 地域団体との連携協力の充実

① 「パワーアップカレンダー」市内養護部会が制作発行し、小中学生の全家庭への啓発を目的に配布

している。これには生活リズムに関する情報や中学校の定期テスト日程とパワーアップウィーク等が示され、就寝時刻・起床時刻・学習開始時刻や、メディア利用に関する家庭でのルールなどが記入できるようにになっている。子どもたちが記入したものは各家庭で家族が見えるところに掲示し、日々の生活習慣づくりに有効に活用している。

② 「むらやま四つの約束」

ネットトラブル防止を目的に村山市子ども会育成会とPTA連合会、校長会が協働で作成し、市内の全家庭に配布している。これには親がメディア利用の手法を示すことや規則正しい生活リズムとの関連も盛り込んでいる。本校PTAでは保護者会等の際に、地域をあげて約束を守るこの意味と重要性を積極的に呼びかけ、意識の啓発に努めている。

三、成果と今後の方向性

学校・家庭・地域が課題と願いを共有し、パワーアッププロジェクトに取り組んだ結果、生徒、PTA共に健康意識が高まり、各種大会での生徒の活躍が輝き、市内全域にも活動が広がられていった。

しかし、メディア利用については現代の深刻な課題であり、継続して取り組む必要があると痛感する。子どもたちが夢をかなえ、幸せな未来を過ごしていけるよう、私たちPTAは学校や地域団体と連携しながら、教育環境を整えたい。さらに親としての適切な判断・行動ができるよう研修の機会を持ちながら、子どもと共に成長していきたいと考えている。

一、はじめに

本学区は新庄市の北部に位置し、学区の中心部に指首野川が流れている。全校児童数百十七名、PTA数九十一名、教職員数十八名の学校である。

児童は、明るく素直でよく働き、何事にもねばり強く取り組む。学区民の連帯感は強く、学校に対してはさわめて協力的である。また、「地域の子どもは地域で育てる」という意識も高い。

二、特色ある取組みについて

総合的な学習との関連

○四年 イバラトミヨ学習

四年生が飼育・観察しているイバラトミヨを、PTAがサポートしてきた事もあり、水槽内で営巣・産卵

し、これまでに約百五十匹の稚魚が孵化し、中川原保全池に放流してきた。

例えば、四年生は、イバラトミヨの住む指首野川の水質と営巣調査を毎年八月に実施している。そして、山形県農村整備課や新庄土地改良区にイバラトミヨの数を報告している。貴重なイバラトミヨが住む川をいつまでも守るためにも、自分たちで指首野川の調査を続けながら、保護者の方や地域の方々に川をきれいにする活動を呼びかけている。

北辰学区元気創出プロジェクト

○実行委員会の立ち上げ

時代の進展とともに住民同士のつながりが希薄になり、これまで当たり前だった「地域の子は地域で育む」環境が崩れかかってきている。

この危機を乗り越えるために、PTAや子どもたち、地域住民と外部のボランティア（山形大学チーム「道草」の大学生）とのふれあいを通して、人と人とのつながる地域社会を構築し、地域ぐるみで子どもへの健全育成を図る環境づくりを目指す。それが「北辰学区元気創出プロジェクト」である。平成二十七年から保護者、地域、大学生が実行委員会を作り、今年度で四年目の事業である。

○「北辰のお宝集」

「お宝マップ」を作成

町内からまずアンケートをとり地域の自慢の「人 モノ コト」探しから始めた。大切にしてきたことは実際に現地に向き、地域の方とふれあうこと。主に活動は夏休みや春休みなどを利用し地域のお宝を探してはテキストにまとめあげた。季節ごとの活動（四回以上）において、子どもたち、地域住民、外部者によって各集落の誇れるお宝を調査し、資料にまとめ、平成二十九年度、北辰小学校創立八十周年記念事業として「北辰のお宝集」を全戸配布した。

○郷土検定の開催

平成二十九年十月、北辰学区のきらりと光る地域のお宝を題材に、ふ

る里の良さを知ると同時に参加者同士の交流を深めるために、全校児童、PTA、地域の方、大学生で、郷土検定を実施した。延べ三百名の方が参加し、交流を深め、地域の良さを再確認することができた。

三、成果と今後の方向性

北辰学区元気創出プロジェクトでは、地域のきらりと光る何かを、みんなで見つけ、調べた。活動を通じて郷土への関心や誇りを持ち、地域の良さを再認識できた。また、山大「チーム道草」がとった、児童アンケートでは、「新庄市や地域が好きですか」に対しては平成二十八年度の八九%から二十九年度九四%と五%増加した。

保護者アンケートでは「地域の教育資源を活用した特色ある教育活動が行われているか」に対しては、平成二十八年度五四%から二十九年度七五%と二一%増加した。

地域内に大学生や教育ボランティアが入ったことで、子どもと保護者や地域住民との結びつきが強まった結果、アンケートにあるように、ふるさとを思う気持ちが強まったと考

優良PTA文部科学大臣表彰

学校と地域がつながり、互いに高め合うPTAを目指して、郷土に誇りを持ち、未来を創る子どもの育成を通して、

新庄市立北辰小学校PTA会長 深瀬 清 光

一、はじめに

本校は、鶴岡市旧温海町にあり、平成二十八年四月に学校統廃合によって山戸小学校、五十川小学校、福栄小学校、温海小学校の四校がひとつになって「あつみ小学校」として新校をスタートして三年目になる。PTA組織も学校と同じくして新組織となり、正副PTA会長、監事、顧問、各専門部長、母親委員、幹事で構成する常任委員会と、学年部・研修部・保健体育部・広報部・生活育成部の五つの専門部、学校内に置く事務局による役員構成となっている。

二、特色のある取組みについて

(一) あいさつ運動

開校初年度からPTAとしても力を入れてきた「あいさつ運動」の取り組みを継承し、「明るい笑顔と元気なあいさつの輪」を地域にも広げている。

(二) 「楽しい学校づくり」を推進するための土台づくりとなるPTAと学校との連携

子どもたちの「学校生活の安定」を図ることが「楽しい学校づくり」につながることを考えており、「生活リズムチャレンジ」・「親子で歯みがきチェック」・「親子でふれあい運動」・「親子読書」等の教育活動を、学校と連携しながら実施している。

① 生活リズムチャレンジ

早寝早起きの規則正しい生活習慣を身に付けるため、一定期間にそれぞれが目標設定して記録することで、きまり良い生活の確立と向上が図られている。

② 親子で歯みがきチェック

年二回、子どもの歯みがきが磨き残しなどなく磨けているかをチェックする機会を設けており、歯の健康増進につながっている。

日本PTA全国協議会会長表彰

あつみ小学校児童の限らない幸せと健康維持を目指すPTA

鶴岡市立あつみ小学校PTA会長 藤原義康

③ 親子でふれあい運動

親子のふれあいの機会を提供し、更には健康増進につながっている。

④ 親子読書

親子で一緒に読書する機会を設けることで、親子のふれあいを深めることにつながっている。

(三) 家庭・学校・地域をつなぐネットワークとしての役割

「ふるさとの良さ」や「地域の人々とのつながり」を子どもたちに伝えるため、家庭・学校・地域をつ

なぐネットワークとしての役割を果たし、「コーディネート」や「地域の先生」として各学年で実施する「地域を知る学習や体験活動」の教育の効果をより一層上げている。

(四) 研修等の学びの機会

毎年テーマを変えて、今日的課題に基づいた「子育て」のための研修を行うことで、子育てに対して深く考えるきっかけづくりになっている。また、学校保健委員会でも子どもの健康に関する学びを深め、会員相互の情報交換の場も提供できている。

(五) 地域全体へ情報発信

PTA広報誌「にじいろ」を年三回発行しており、楽しい誌面でPTA会員のみならず地域に情報発信を行っており、地域内での話題づくりや、PTA活動への関心を高めることにつながっている。

(六) 安心・安全への取り組み

学校統廃合前にそれぞれの小学校区で作成していた「危険箇所マップ」を、生活育成部が中心となって新たに情報を集め、見直しを行っている。

がら改訂、編集作業を進め、平成二十九年度末にPTA会員の全ての家庭および関係機関に配布した。夏季休業前の地域懇談会でも学校と地域、保護者による共通認識のための資料として有効に活用されている。また、同じく夏季休業前には「生活育成部だより」を発行して、安心・安全な過ごし方について各家庭への啓発と、「きまり」に対する共通認識を図っている。また、山形県の交通安全県民運動の実施期間にあわせて春・秋の年二回、交通安全・登校指導を行い、安全に対する意識の啓発を積極的に行っている。

三、成果と今後の方向性

あつみ小学校PTAは、発足当初から学校教育目標とリンクする形でPTAのスローガンを「育もうふるさとに誇りを持ち、高い志を持って、挑戦し続ける子ども」として、それにつながる活動を行っている。PTAと学校だけでなく地域も一体となった活動につながるよう今後も工夫しながら活動展開していきたいと考えている。活動内容を振り返りながら、新しいことも積極的に取り入れて「あつみ小学校児童の限らない幸せと健康維持を目指すPTA」として学校、地域そして子どもたちと関わりながら楽しく過ごしていきたいと考えている。

この度、平成三十年度「優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰」をいただき、これまで活動の礎を築きあげてこられた諸先輩方を始め、教職員、見守っていただいた地域の皆様に、心から感謝申し上げます。本年は山形県PTA連合会結成70周年を迎える節目にも当たり、山形の子どもたちの健全育成にご尽力されてきた関係各位に、改めて敬意を表します。

秋田県境に位置し、四季折々が美しい自然豊かな環境に囲まれた真室川中学校は、平成二十五年に町内の中学校が統合し一つになりました。広範な学区のためスクールバスでの通学生徒もありますが、地域の皆様からご協力をいただき毎日安全に通学しています。

本校は、生徒会五大目標に「挨拶」「運動」「学習」「合唱」「奉仕」を掲げ、PTA組織は三つの専門部（共育部、広報部、協働部）と各学年部に分かれ、特色ある活動に取り組んでいます。一例を紹介しますと、「共育部」は、部員を中心とした学校保健委員会で生活リズムを見直し、年四回五日間ほどメディアコントロールを実施しています。視聴時間

を決め、実施後家族から感想をもらうことで、学習時間の増加へつながるのがねらいです。

また、社会問題として深刻化している「SNSによるいじめ」防止のため、生徒・保護者両方が正しい使い方（人に迷惑を掛けない）の講演会を開催しています。先日新聞報道で、県では青少年健全育成条例に、SNS被害防止のため罰則規定を新

校する姿を見て、私たち大人も元氣をもらっています。

「広報部」はPTA広報紙を年三回発行し、学校行事の他、保護者への啓発を図るため毎年特集を組んでいます。町内全戸回覧をし、PTA活動について地域へ情報発信、理解を深めています。

「協働部」は、年二回の親子早朝作業として、学校美化のため休日早

意識を高めるようにしています。

「二学年」は、小さい頃のスライドショーと生徒の決意表明を行う「立志式」を開催し、たくましく成長した姿に、保護者は激励の合唱をプレゼントしています。

「三学年」は、進路合格祈願の餅つきや、三年間の学び舎を卒業する喜びと感謝の気持ちを込めて、教職員と保護者の皆様で「卒業を祝う会」を開催しています。

このように、学年評議員が中心になり、率先してPTA活動を企画・実践することにより、一緒に学び、話し合い、楽しく充実した活動ができています。

一方で、全体の講演会を企画した際に、いかに多くの参加者を集めるかが課題となっています。部活単位で講演会を企画した例もあるので、少人数でも参加しやすい企画も必要かと考えています。

終わりに、今回の受賞を励みに今後も家庭・学校・地域の連携を深め、地域の「たから」である生徒の健全育成と輝かしい未来のため、全保護者の協力を頂きながら「つながり」を大切に！笑顔あふれるPTAを目指していききたいと考えています。

日本PTA全国協議会会長表彰

つながりを大切に！

笑顔あふれるPTA

真室川町立真室川中学校父母と教師の会会長

加藤 清 美

設、有害情報への対応に一部義務行為を設けるなどしてネット被害防止を強化する方針だと知りました。SNSという、昔はなかったいじめの舞台が現れている今、対応を学校だけでなく、家庭や地域が連携して子どもたちを守ることが重要だと思っています。

他には「朝のあいさつ運動」を年五回実施し、生徒の明るく元気に登

子どもたちの笑顔が見たいから

山形市立出羽小学校PTA会長 佐藤 義庸

一、はじめに

出羽地区は、山形市の北部に位置している。紅花の里である。明治三十四年、漆山小学校と七浦小学校が合併し、出羽尋常高等小学校として創立され、今年、創立一七七年を迎える歴史と伝統ある学校である。保護者や地域住民は、学校教育に対して、何事にも協力的である。

二、特色のある取り組みについて

- ・「ありがたいハートボックス」活動により、いじめ問題や不登校の撲滅に向けた教育環境づくりに尽力している。
- ・母親委員会主催の研修会実施とともに、その成果を母親委員会日より「笑顔」の発行により共有している。
- ・安全点検、登校指導、下校指導の充実により、通学路や遊び場の危険箇所を洗い出し、改善している。
- ・登校時に通学路に立ち、児童とあいさつを交わす「さわやか運動」を実施している。
- ・PTA文化部が中心となり、会報「花ふじ便り」を年2回発行している。
- ・地域の教育的な環境整備・改善への取組みとして、生活環境部が計画し、五月と九月の二回、地区の資源回収を行っている。地区内で軒先での回収を行い、地区生活環境部員が集積場所に運び、PTAの役員を中心に業者のトラックへ

積み上げを行っている。

- ・母親委員会で、体育着リユースの取組を年三回（春、夏、地区文化祭、就学時保護者対象）実施している。
- ・地区の文化祭において、毎年恒例の催し物である「駄菓子屋楽校」を実施している。PTAの常任委員と児童で準備から運営まで計画し、地区文化祭を盛り上げている。

三、手を取り合って

出羽小学校PTAのスローガンは、「子どもたちの笑顔が見たいから」である。

PTAだからできること、PTAでなければできないことを互いに協力し話し合いながら、子どもたちが学校や家庭において、さらには地域の中においても、明るくのびのびと生活できるようにPTA活動にしたいという基本理念を掲げている。基本方針は、次の四つである。

- ・子どもたちと関わりをもとう！
- ・学校ともっと関わりをもとう！
- ・いろんな人や地域ともっと関わりをもとう！
- ・ちよつと無理して参加してみよう！

頭文字を合わせると、「子がいち（子どもが一番！）」という意味になる。これからも、会員の力を結集させ、広く意見を求め、PTA活動のさらなる充実のために、家庭と学校と地域が手と手を取り合っていきたいと考えている。

子どもたちと共感し、地域と連携するPTA

南陽市立宮内中学校PTA会長 小林 恵一

一、はじめに

本校は、平成二十二年四月に、南陽市中学校再編整備事業により、宮内中・吉野中・漆山中三校が統合し、それぞれの良さと伝統を引き継ぎながら、新しい宮内中学校の歴史を刻んでいる。

二、PTA組織

本PTA組織は、会長一名、副会長若干名、会員二百三十六名（保護者、職員）の体制である。運営委員会（執行部、学年委員長、部保護者会会長、専門委員長、担当教員）で全体の計画を作成し、総会、評議員会に提案している。

また、専門委員会は、研修、保体、広報の委員会があり、各学級から選出されている。

本PTAの特色ある活動は次のとおりである。

① 情報モラル教育の推進

小中学校のPTAが連携し、SNSに関する研修会や使用に関するガイドラインの啓発等に取り組んでいる。

② あいさつ運動の推進

宮内中学校区 笑顔いっぱい！共育ネットワーク（幼保小中高と子どもとの健全育成に関わる地域の団体）と連携し取り組んでいる。

③ 学年委員会、専門委員会、各部保護者会の活動の推進

各委員会が主体となり、全会員が参加しやすい活動をしている。

④ PTAと地域との連携

職場体験学習の取り組み、STE P活動（リサイクル）、防災活動への参画などに、PTAとしても協力している。

三、成果と課題

PTA活動はPTAだけのものではなく、地域の団体との協力、そして何よりも子どもたちとの共感の上に成り立つ。また、時代と共に課題が変化している。今までの活動で長年実践してきた取り組みを大切にしながらも、現代の課題を敏感にとらえ、今後も生徒とともに活動していきたい。

日本PTA全国研究大会新潟大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

宇野 尚

八月二十四日・二十五日に新潟県全域を会場に第六十六回全国研究大会が開催されました。私は長岡市を会場とした第三分科会に参加しました。

第三分科会のテーマは「学校教育」。長岡市教育委員会教育長の高橋譲氏の基調講演で、「米百俵の精神」の意味を知ることができた、というよりも、「米百俵の精神」に触れることができました。

「米百俵の精神」とは、北越戊辰戦争に敗れ焼野原となった長岡藩に友藩から救援米として送られた米百俵を、困窮する藩士に分け与えるのではなく、国漢学校の設立資金にあて、人づくりに尽力した、という故事に由来します。このことを、「教育は未来への希望である」と捉え、行政と学

校と保護者が連携して様々な教育活動にあたっていました。どれも、本物に触れることで熱中、感動を喚起して、志を立てる力、生きぬく自信を育むものでした。

翌日の全体会は、長岡市のアオーレ長岡で行われました。四つの団体による歓迎アトラクションが行われ、「米百俵の精神」に背中を押された子どもたちの涙刺とした姿が印象に残りました。全体会の冒頭で、日本PTA全国協議会会長の東川勝哉氏が二〇四五年問題に触れました。

二〇四五年は技術的特異点と言われる、AIが人間的な汎用性を持つ転換点となる可能性があります。人間にしかできないといわれている多くの仕事、機械に置き換わっていく時代がそう遠くない未来に訪れます。その時を生き抜く力を、私たちの宝物である子どもたちが身に付けていかななくてはなりません。そのために親は、学校は、地域は何を伝えていけばいいのか。そのヒントと答えをいただいたように感じました。

最後に、分科会での高橋譲氏の言葉を紹介いたします。「子どもも親も先生も、体験によって成長できる」「次の世代に夢と希望を渡して、教育は完成する」。文字だけでは分からない、聞くだけでは伝わらないことの多さと、体験することの大切さを実感した二日間でした。

日本PTA国内研修に参加して

研修からの学び

新庄市立新庄中学校 上嶋 大哉

羽田空港で飛行機に乗った瞬間、不安と期待が湧いてきました。沖縄に着くとすぐに決まっていた班に分かれ、自己紹介をしました。全国から集まった初めて会う仲間、みんな緊張でいっぱい顔でした。四泊五日が不安になりました。渡嘉敷島行きのフェリーに乗ったのを覚えています。

島に着くと班のリーダーである大学生のしんちゃん、と合流し、班のみんなと五日間のプログラムの目標について話し合いました。お互いを少し知ることができて、楽しいと感じ、僕の不安はなくなりました。

二日目は、班でカレーを作りました。この野外炊飯は、協力なしでは成り立ちません。だからこそ班内でのまとまりが生まれるのだと感じ、友情が深まりました。午後からの海洋研修では絵葉書のような透き通る海が目の前に広がっていました。見たことのない景色に鳥肌が立ちました。このような素晴らしい景色があるのは島で戦争が行われていたことを忘れてはいけません。平和学習で僕たちは、戦争の苦しさを感じました。沖縄本土だけでなくこの小さな島にも兵が来たと考えると本当に恐ろしいと思います。

三日目のワークショップでは、釣りをしました。山形では見ることのできない魚や魚の群れをみることができました。その夜海に行って班で火を囲み、三日間を振り返りました。その一時間が一番心に残っています。リーダーのしんちゃんは研修が始まる前は、不安しかなかったけどこの三日間で参加して良かったと思えるようになったと涙ながらに話してくれました。

僕は、「ありがとう」この一言が人との距離を縮めてくれる事を学びました。言った方も言われた方も温かくなります。島を出て本土に戻り、別れた時間が迫ってきました。僕は感じたことのない虚しさが湧いてきました。別れはともつかなかったですが、僕はこの出会いと五日間で学んだ経験を絶対にわすれません。

ありがとう

新庄市立新庄中学校 草間 葉

私は、三月二十七日から四泊五日、PTA国内研修に参加しました。

一日目は、全然他県の人とも話せず、おどろいていたのを覚えています。班が決まり、女子の皆とは会話はできたけど男子とは話せず、すごく不安になりました。でも、二日目の野外炊事では、皆が協力して作ったおかげでおいしいカレーを作ることができました。うれしかったです。だんだん班の人とも仲良くなり私は自然と話せるようになりました。

海洋研修では、渡嘉敷島の美しい海を感じることができました。サンゴに魚、どれもきれいで驚きました。そしてわすれてはならない沖縄戦。実際に体験した人の話を聞いて、生々しく戦争の恐ろしさを実感しました。集団自決跡地へ行くところの映像がよみがえってきそうでした。今幸せに暮らしていることに感謝し、生活していきたいと思いました。

三日目は、渡嘉敷島の散策とワークショップを体験しました。散策では、特徴のある家や植物など、山形にはないものを見つけたことができました。ワークショップは、特に記憶に残っています。私はけちま太鼓に挑戦しました。最初はできるか心配だったけど、島の方々が、やさしく教えてくれたおかげで発表は大成功でした。チームの皆とも息を合わせてできました。

私はこの五日間、沖縄の自然、歴史、伝統文化などたくさん発見するとともに学ぶことができました。まだまだありますが、これも班の仲間や島の方々、研修に携わってくださった皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございました。この研修で感じた考えたこと全て心の中にしまい、それを活かしていけるよう生活していきたいです。

沖縄は、渡嘉敷島は、とてもいいところです。素晴らしい自然、やさしい島民の方々、ありがとう。まくつとぅしそ、けしなんくるないさ。

栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。(敬称略)

平成30年度文部科学大臣表彰(団体)

〈団体表彰〉

村山市立楯岡中学校PTA

新庄市立北辰小学校PTA

〈個人表彰〉 振興功労者

武田 岳彦 新聞徳次郎

平成30年度 日本PTA会長表彰

〈団体表彰〉

鶴岡市立あつみ小学校PTA

真室川町立真室川中学校父母と教師の会

〈個人表彰〉

齋藤 真朗 (前県P連副会長)

涌井 洋一 (前県P連副会長)

鈴木 聡 (前県P連副会長)

尾形 吉則 (県P連監事)

〈特別表彰〉

堀田 理恵 杉山 宏行 佐藤 文一

毛呂 光一 佐藤 正光

平成30年度 東北ブロックPTA協議会会長表彰

〈団体表彰〉

山形市立出羽小学PTA

南陽市立宮内中学校PTA

〈個人感謝状〉

鈴木 真一 (前山形県PTA連合会会長)

〈個人表彰状〉 (前県P連理事・監事)

佐藤 正教 前山形県PTA連合会理事

荒木 茂 前山形県PTA連合会理事

柴崎 雅紀 前山形県PTA連合会理事

大町 竜哉 前山形県PTA連合会理事

小松 寛幸 前山形県PTA連合会理事

岡崎 克己 前山形県PTA連合会理事

中村 慎一 前山形県PTA連合会理事

佐藤 司 前山形県PTA連合会理事

佐竹 直子 前山形県PTA連合会理事

佐藤 博美 前山形県PTA連合会監事

平成30年度 優良PTA山形県教育委員会表彰

福原小学校PTA 山形大学附属小学校PTA

飯豊中学校PTA 高島小学校PTA

余目第三小学校PTA

真室川中学校父母と教師の会

宮内中学校PTA あつみ小学校PTA

出羽小学校PTA 楯岡中学校PTA

北辰小学校PTA

平成30年度 山形県PTA連合会会長表彰

〈感謝状〉 平成29年度県P連役員退任者

鈴木 真一 県P前会長

鈴木 聡 〳 前副会長

齋藤 真朗 〳 前副会長

佐藤 正教 〳 前理事

荒木 茂 〳 前理事

柴崎 雅紀 〳 前理事

大町 竜哉 〳 前理事

小松 寛幸 〳 前理事

岡崎 克己 〳 前理事

中村 慎一 〳 前理事

佐藤 司 〳 前理事

伊東 守 〳 前理事

渡邊 裕美 〳 前理事

堀田 理恵 〳 前理事

佐竹 直子 〳 前理事

佐藤 博美 〳 前監事

阿部 勉 〳 前監事

〈表彰状〉 郡・市PTA連合会より推薦

佐藤 公啓 山形市P連研修大会前実行委員長

田中 正浩 山形市P連前副会長

前田 浩一 山形市P連前副会長

阿部 哲也 上山市P元会長

矢吹 英修 天童市P連前会長

滝沢 修 山辺町P連前会長

猪倉 秀行 西村山P連前会長

森 里史 東根市P連前会長

東村 貴恵 最上地区P前母親委員長

渡部 昭仁 鶴岡市P連前監事

根上 道晴 宮野浦小P会長

菅原 善明 鳥海八幡中P前会長

佐野 亜古 酒田飽海P連前母親委員長

平成30年度 第40回全国小中学校広報紙コンクール

〈日本PTA奨励賞〉

東根市立東根中部小学校PTA

新庄市立沼田小学校PTA

最上町立向町小学校PTA

鶴岡市立櫛引東小学校PTA

酒田市立黒森小学校PTA

酒田市立亀ヶ崎小学校PTA

鶴岡市立鶴岡第一中学校PTA

酒田市立東部中学校PTA

酒田市立鳥海八幡中学校PTA

酒田市立第四中学校PTA

〈山形県PTA連合会会長賞〉

朝日町立宮宿小学校PTA

朝日町立大谷小学校父母と教師の会

最上町立大堀小学校PTA

新庄市立日新小学校PTA

真室川町立真室川小学校PTA

新庄市立本合海小学校PTA

大蔵村立大蔵小学校PTA

米沢市立松川小学校父母と教師の会

長井市立長井小学校PTA

鶴岡市立鼠ヶ関小学校PTA

鶴岡市立西郷小学校PTA

鶴岡市立京田小学校PTA

酒田市立平田小学校PTA

酒田市立西荒瀬小学校PTA

東北ブロックPTA研究大会秋田大会に参加して



東田川郡PTA連合会
母親委員長

熊谷千春

『つながろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう未来を拓く子どもたちのために』をスローガンに五十回目となる東北ブロック研究大会が九月十五日、十六日の二日間に渡り開催されました。前回秋田で開催されたのは震災のあった年。被災地では学校自体の運営もままならない中、そんな時だからこそ、と開催を望む声があり実行したという話を伺い、東北六県から一堂に会して学ぶ会う本大会は大変意義のあるものだと思います。

一日目は六つの分科会に分かれての活動でした。私は心の教育をテーマとした第三分科会に参加させていただきました。基調講演は腰塚勇人氏による『命の授業』。『自身の、事故から奇跡の復活を遂げた体験談を交え、命の大切さ、心の持ち方を教えてくださいました。パネルディスカッションでは、家庭・学校・地域を結ぶコミュニケーションについてとても参考になるお話を伺いました。

二日目は全体会。まず、白百合保育園による一輪車演舞、男鹿のなまはげ太鼓、山王中学校吹奏楽部による素晴らしいアトラクションに感動しました。記念講演では橋本五郎氏、菊池桃子氏が登場し、自らが経験した子育てのことなどについて語ってくださいました。橋本氏は、近年多くで語られる『多様性』という言葉について、物事どれ一つをとっても色々な意見があり、否認であったとしても意見として認める事が大切であるということ話をしてくださいました。菊池氏の、ご自身の体験を踏まえ、子どもの前で他人の悪口を言わないなど、まず親自身が手本になれるような振舞いを心掛けた方が良いというお話は私自身も是非取り組んでいきたいと思いました。

このような会に参加させていただくのは初めてでしたが、学ぶことが多く、大変有意義な二日間でした。今後の子育て、活動に活かしていきたいと思っています。来年度は山形県内での開催となります。是非ご参加ください。

山形県PTA連合会 安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

安全互助会ってなあに？……加入については学校PTAごとになります。

- * 児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶然の事故での賠償事故を補償します。
- * PTA行事中での会員（児童・生徒・保護者・教職員）傷害事故・賠償事故を補償します。
- * 補償の内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。

※近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1000万円のコースをおすすめします。

- ・安全互助会加入校のうち57%の学校PTAが特1000コースに移行されています。
- ・特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え、是非ご検討下さい。

※子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- ・傷害事故1017件のうち79件が自転車に係る受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

※事故の未然防止が一番大切です。

- ・スポ少活動中の事故が4割を占め最多となっています。指導者や保護者のご協力をお願いいたします。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入280校の内訳			
A	112	特A	150
B	6	特B	9
C	1	特C	2

傷害事故支払状況 (単位：千円)			
	件数	児童・生徒	件数 PTA傷害
平成27年度	1,245	12,161	63
平成28年度	1,240	11,749	53
平成29年度	1,168	11,394	49
30年度 (31.1.25現在)	1,017	9,041	44

賠償事故支払状況 (単位：千円)		
	件数	金額
平成27年度	77	5,156
平成28年度	71	3,411
平成29年度	76	5,351
30年度 (31.1.25現在)	62	3,821

第51回日本PTA東北ブロック研究大会兼 第71回山形県PTA研修大会南陽・東置賜大会のご案内



大会実行委員長
嶋 貫 憲 仁

今回の山形県PTA研修大会は、日本PTA東北ブロック研究大会と兼ねて、二〇一九年九月七日（土）・八日（日）に、南陽市・高畠町・川西町を会場に、東置賜地区PTA連合会が主管して開催されます。

平成二十四年度の酒田・鮎海大会以来、七年ぶりに山形県で行われる東北ブロック研究大会は、三十年間続いた平成の時代から、新たな元号の世を迎えて初めて開催される記念の大会でもあります。このような時機に、歴史と伝統ある大会を南陽・東置賜で開催できますことを誠に喜ばしく感じる次第です。

複雑多様化する社会の中で、今、子どもたちを取り巻く様々な問題が指摘されています。来年度の南陽・東置賜大会では、東北各地で若者のふるさと離れが進む中、未来を拓く地域の宝である子どもたちのよりよい成長のため、『つなげよう 家庭・学校・地域を 親も成長しよう 子どもと共にふるさとは国

の本なり、育もう 地域の宝を』を大会主題に、PTAの役割について議論し、発信してまいります。

そのために、分科会では、①地域連携、②家庭教育、③環境教育、④組織運営、⑤人権教育、⑥健康安全の六つのテーマを設け、東北各県のパネリストの皆様からの実践活動や研究の発表を通して、会場の皆様とともに学びを深めてきたいと考えております。

また、全体会では、国際文化人でインドネシア元大統領夫人のラトナサリ・デヴィス・カルノ氏（デヴィ夫人）を記念講師にお招きし、友好親善や人材育成、慈善活動などに地球規模で活躍の自らのご経験をふまえ、誰もが互いを尊重し支え合い、積極的に参加・貢献できる、地域の「共生社会」づくりについて考えたいと思います。

南陽・東置賜大会が、東北ならではの歴史・伝統・教育を次の世代に受け継ぎ、本県はもとより、東北のPTA活動に有意義な大会となりますよう、南陽市・高畠町・川西町のPTA一丸となって準備を進めておりますので、県内各地からの多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

平成30年度 山形県PTA連合会役員名簿

会 長	佐藤 博之	山形市PTA連合会	第 六 小	理 事	大川 利幸	東田川郡PTA連合会	三 川 中
副会長	齋藤 秀和	山形市PTA連合会	第 九 小	理 事	丹野 芳弘	県小学校長会	上 山 小
副会長	萩生田祐司	上山市PTA連合協議会	上 山 小	理 事	小関 広明	県中学校長会	山大附属中
副会長	宇野 尚	東置賜地区PTA連合会	小 松 小	理 事	高見 佳澄	県P母親委員長	山寺小中
副会長	小野寺良行	酒田鮎海PTA連合会	酒田三中	理 事	佐藤 裕子	県P副母親委員長	酒田三中
理 事	山口 敦史	天童・東村山地区PTA連合会	天童一中	監 事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	第 六 中
理 事	芳賀 好治	西村山PTA連合会	陵 東 中	監 事	鈴木 隆	山形市PTA連合会	蔵王一中
理 事	金子 一志	北村山PTA連合会	楯 岡 中	監 事	海野 晋	西村山PTA連合会	大 江 中
理 事	涌井 洋一	最上地区PTA協議会	新 庄 小	事務局長	村山 良光		
理 事	竹田 博明	米沢市PTA連合会	広 幡 小	事務局員	佐藤 静子		
理 事	山口 順之	西置賜地区PTA連絡協議会	飯 豊 中	事務局員	熊谷 慶子		
理 事	藤野 淳	鶴岡市PTA連合会	鶴岡二中				

御礼とお知らせ

今年度は、八月に新潟県で日本PTA全国研究大会が開催され、県内から多くの会員の皆様から参加いただきありがとうございました。宿泊・懇親会に関して様々な面でご不便をおかけしましたにもかかわらず、最後までご参加・ご協力をいただき、ありがとうございました。

来年度は、日本PTA全国研究大会兵庫大会が予定されており、また、県PTA研修大会と兼ねて、日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会が予定されており、準備をすすめていただいております。ご支援、ご協力、ご参加の程よろしくお願いいたします。どちらも日程調整の上、たくさんの方が得られますよう準備方よろしく願いいたします。さらには、二〇二二年度には、日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。

県PTA連一丸となって全国からのPTA会員をお迎えして共に研修を深めていきたいものです。重ねてご協力よろしくようお願い申し上げます。

